

新年あけまして

おめでとうございます



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、まことにありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されてから1年7月が経過しましたが、いまだ拡大傾向にあり、更にインフルエンザや手足口病、マイコプラズマ肺炎などの感染症も流行してきております。

また当院でも、残念ながら一昨年続き昨年入院患者さんや当院職員に、新型コロナウイルス感染症が発生してしまった月もあり、皆様にもご迷惑をおかけいたしました。これまで通りの感染症対策を徹底することにより拡大を最小限に抑え、短期間で終息することができました。本年も全職員油断することなく、感染症対策に最善を尽くしてまいります。

さて現在の医療業界では、医師の地域偏在が大きな問題となっており、当院があります南丹医療圏は、京都式医師偏在指数が府内で2番目に低く、我が国の医師

偏在指数でも医師少数区域で、顕著な医師不足となっています。

また南丹市や京丹波町の人口動態をみますと、総人口は年々減少している中で、両市町とも高齢化が進み、それに伴い基礎疾患を持ちながら別の疾患に罹患してしまい病状が複雑化している患者さんが多くなっていることを実感いたしております。

幸い当院は、京都府立医科大学や京都中部総合医療センターからご支援いただき、医師については本年も現状を維持できる予定です。

今後も生活習慣病と一般急性期の診療を行いながら、より高度な医療が必要とされた患者さんについては、近隣の基幹病院との連携で診療を行ってまいります。また、急性期医療が行われたあとは、かかりつけ病院として患者さんの疾患治療と健康管理を行い、必要に応じて低下した日常生活動作を回復するべく多職種によるチーム医療を行って、ご自宅や連携施設にお戻りいただく、そのような病院を目指して地域の皆さんが安心して生活することができるように、職員一同惜しみなく努力していく所存ですので、本年もご支援、ご協力賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

新年が、患者さんにも、連携病院や連携施設の皆様にも、当院職員にも良い一年となりますことを祈念いたします。

令和7年1月

明治国際医療大学附属病院
病院長 浅沼 博司

